

令和 7 年度第 1 回城東区区政会議（地域福祉部会）

日時：令和 7 年 6 月 9 日
19 時 30 分～20 時 30 分

○弟子丸部会長

令和 7 年度第 1 回城東区区政会議、地域福祉部会をはじめさせていただきます。

地域福祉部会の部会長を務めさせていただきます、弟子丸でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

早々ですが、部会の論議に入らせていただきます。

先ほど、本会で説明がありました令和 6 年度城東区運営方針の自己評価に関して、委員の皆さんのご意見をいただきたく存じますので、よろしくお願いいたします。

地域福祉部会としましては、経営課題の 4、「地域が支え合い、住み慣れた場所で安心して暮らせるまちへ」に関するすることを中心にご意見を伺ってまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

ご意見のある方は、挙手をお願いします。

4 ページになりますね。今日の資料でいきますと。経営課題 4 です。

○嶋委員

よろしいですか。

経営課題 1 ですが、1 年前もお話してるんです。区民アンケートというのは、先ほどの、窓口の覆面アンケートとは、またちょっと違うイメージだと思いますが、一般的なアンケートというのはまず全体の N 数を明示して、地区別、今回であれば、学校区別かもしれませんが、区別年齢別性別というのを明示していただいて、そこで極端に高いとか低いとか問題がありそうなところを、浮き彫りにされて、記載されるというのが一般的な手法。一般的。

区役所が一般的にという扱いをされるかどうかって、これは別問題ですけども。

そういうお願いを私は 1 年前にしましたけど、あんまり変わってないなっていう。

ちなみにこれ何人ぐらいをアンケート取られたんですか。区民アンケートというのは。

○吉田保健福祉課長

今おっしゃっていただけてますのは、経営課題の 1 ですか。

○嶋委員

はい 1 です。

○吉田保健福祉課長

大変申し訳ないんですけども、こちらの部会の経営課題 4 の経営課題になってございましてですね。

○嶋委員

え、経営課題の2ですか。

○吉田保健福祉課長

いや4ですね。

○嶋委員

違うのは議題にしたら駄目なんですか。

○吉田保健福祉課長

駄目ということではなくて。私の担当でないのですね、お答えができない内容となってます。経営課題4の中でご質問いただきたいと。

○事務局

あ、すいません、区民アンケートについては、城東区民2,000人を対象に行ったものでございます。ご指摘の件については検討させていただきたいと思います。

○嶋委員

検討というのは非常に多く使われるんで。

ちょっと脱線しますけど。上でも。老人福祉センター。

ちょっと今年から、健康マージャンサークルにちょっと申し込んで、そこは、名札がないですね。

それから、申し込みの割りに卓が少ないので、増設とそれから、名札。

参加者に。

親しくなるコミュニケーションがね、メインでって言っているのであれば、それぐらいつけてもいいと思って、館長さんですけども、冷水さん。ちょっと珍しいお名前ですけど。お願いしたんですけど。

ここは福祉局の施設で、区とは違いますから、予算とか何かちょっと別のあれなんで即答できませんというんです。で、検討してきますと。

名札検討していきますと。

で、次行きました。できてませんでした。

次も行きます。できてません。

検討というのはできないことなんだろう。やらないってことなんだなっていう。

概してありがちなんで、非難するつもりはありませんが。

区役所、役所さんの文化用語として、非常に勉強になっております。

で、経営課題4でちょっと、お願いというより、意見あったということによろしいですかね。

質問なんですけど。

地域が支え合い、住みなれた場所で安心して暮らせるまちというのは、本当にいいタイトルだと思うんですが。中の、書いてあるというか、やろうとされてることも非常に素晴らしいなとは、思っているんですが。

62%民生委員児童委員アンケートで、62%の方が支え合う活動ができてると、答えられたんですね。

そうですね。

だから、38%はどんな、補填されたのかそれ知ったら、何で支える活動ができてないのかなと、答えられたかということですよね。

38%の方は。

私は、民間企業の出身なので。

基本的に、企業のアンケートというのは、ホテルとかいろんな接客、みんなそうですけど、クレームからまず、入りますよね。

それは問題解決する第一歩ですから、満足度高い、高いものが多いに越したことはないですよ。

ないけど、それが、クレーム 4 割近いと非常に高いですね、かなり我々の感覚からいうと、普通 10%とか 20%ぐらいが、だから非常に高いというのとその 38%の質は何が。

いうのはちょっと教えていただければ。と思います。

それに対してはどう具体的なアクションを起こされるのかなということ、この 2 つですね。

○吉田保健福祉課長

はい。

今ちょっとお話いただきました民生委員児童委員のアンケートですけれども、目標が 62%という数字以上組みましたけど。

○嶋委員

62%って、どこからの目標設定された数字なんですか。

私から言えばもっと高くてもいいんじゃないですか。

90%でもいいんじゃないですか。

○吉田保健福祉課長

令和 4 年度の実績でですね、60.4%という数値になっておりまして。

そこからですね、そこよりも、増やしていくということで 62%というような目標を立てさせていただいたところ、結果、令和 6 年の実績で 61.4%という数値になってございます。

こちらアンケートにつきましては、城東区の 16 地域の民生委員児童委員の皆様方にですね、自己評価というところになるんですけれども、アンケートをとらせていただきまして、地域での様々な、福祉の担い手の協働により支え合う活動ができてるかというところのアンケートになっております。

福祉に関しましては、やはり、支え合う活動ということが重要でございますので、そういった指標を取らせていただいています。

ちょっとすいません。

今の、お手元の方にですねちょっと具体的に、数字の方がいいんですけども。地域ごとにですねちょっとばらつきもあったりしましてですね、我々としても、できるだけ少しずつでも、数値上げていきたいという思いで、いろいろ取り組みを進めているという状況でございます。

○嶋委員

あの、ちょっとごめんなさい。

私、同じマンションに民生委員の、委員長が委員長佐野さんがいらっしゃるんで。ちょっと聞いたことあるんですが。

いや皆さん待つことなく、自発的にされてますよ。相談件数も多いはずですよ。というお話だったんで。

そう見ると 60 ってすごい低いな。

全体で何人くらいいるんですか。

○吉田保健福祉課長

二百十数名いらっしゃいます。

○嶋委員

たくさんいらっしゃるからいろんな方もいるし、地域によって、そう、難易度高いと言ったら変な言い方ですけど。

例えばそうでないところもあるんだろうと思うんですけど。

ただ、聞いた感じ。

佐野さんから聞いた感覚からいうと、もっと高くていいんじゃないかなって気がちょっとしました。

38 って数字、NO が 38 ってすごいちょっとギャップがあるなというのが正直なところですよ。

○吉田保健福祉課長

今ね、委員おっしゃっていただいたところ、いろんな理由はあるのかなというふうに思うんですけども。

福祉課題という、大きい課題なりますので、取り組みとして、十分だというふうに思っておられる方もいらっしゃるんですけども、まだちょっとまだもう少しでできるんじゃないかというふうに思っておられたり、してる方がアンケートの結果の中で、できているというふうに感じたところまではちょっと言えないという結果だったのかなと思っておりまして。

我々、また、機会ございましたら民生委員・児童委員の方々にもちょっとご意見の方もちょうだいできたらなという風にも思っております。

○嶋委員

最後、38%のちょっと中身だけ教えてもらえれば。いろいろそれはまたね、考えがあると思いますから、ちょっとそんなところだけを、佐野さんにもちょっと聞いてもらいたいなと。

○吉田保健福祉課長

わかりました。ありがとうございます。

○嶋委員

そこちょっとお願いします。

その次の在宅医療、介護いろいろ、高齢者が住み慣れた地域でと、私も住み慣れた地域で安心して暮らし続けたいなと思ってはいるんですが、非常に在宅医療・介護連携推進会議、会議体、それから研修会、それから連携先という、アクション目標、プロセス目標を立てられています。

中身は非常に素晴らしいというあれで、これ、アンケートをとられてるみたいですが、私の感性でいうと、住み慣れた地域でもっと安心して暮らしたいという

のはいろんな意味で、サポート体制ができて、医療体制もできて、で、結果としてですね、健康年齢というか、何か、結果として長生き、結果として私は新聞的には100歳以上は200人ぐらい。いるぐらいのまちだったら素晴らしいなと思ってるんですけど。

今、9万なんぼですよ、ね100歳以上って。これ当てはめると大体1200人に1人ぐらいですかね。

城東区だと、140から150ぐらいいらっしゃればへ、全国平均並みはなはずなんですけど。

多分大阪府、大阪市はもっとちょっと少ないかもしれないけど、これいずれにしても、今何人かというのはご存じですか。100歳以上。

今、9月に市長表彰があるから、多分、9月レベルのニーズはわかってないといけないと思ってるんですけど。

○吉田保健福祉課長

大変申し訳ございません。ちょっと今、手元に数値がないので確認の方させていただきます。

○嶋委員

全然関心がないってことなんですね。

○吉田保健福祉課長

いやそんなわけではないんですが、すいません。

○嶋委員

1つの、別に100歳多いから、すばらしいまちとは思いませんが、ただ、アピール力というか、我々も励まされます。多ければね。

それから他から見ても、城東区ってすごいいい取り組みしてるから結果として100歳多いんだと。100歳体操もありますしね。

そういうことから言うと、1つのシンボルの目標として。これ、数値目標何もないんですよ。アンケートっていうのは、プロセス。

結果で、受益者、市民、或いは高齢者、そういう人がどうなったかって何も、結果は何もないんですよ。

だから1つのシンボリックな、結果取りにくいとは思いますが。

シンボリックな、1つの目標として100歳以上何人って。

100人近いから、150、130でもいいですか、全国平均よりちょっと上って欲しいなと思うんですよ。

そういう目標を掲げられたらすごくわかりやすくありがたいのかなと。

100歳体操にも気合いが入るかなというふうな、ちょっと、これ1つの提案っていうか、お願いというか、はい。

象徴的な目標としてですね。

○吉田保健福祉課長

ちょっと区の方でもですね健康増進プランというのを策定しておりまして、その中で健康寿命の延伸ということも、取り組み目標として掲げさせていただけるんですけども、今回この運営方針の課題の中でですね我々ちょうど今年も行ってる取り組みの中身といたしまして会議の開催回数であったりとか、参加人数、研修会の参加人数というようなことを、1つの取り組み指標としてさせていただいておりますけれども、ちょっと、委員ご発言いただいたご意見も参考にさせ

ていただきたいと思います。ありがとうございます。

○嶋委員

いえ、それからですね。

いや、あんまり1人で。いやいや、他の人。

○弟子丸部会長

他の方どうでしょうか。

○嶋委員

じゃ、私の方からまたしつこいですけど。

健康なんですけど、生涯学習ルーム。

こちらの所管じゃないんですか。

市民協働課、経営課題1なんですけど。

○弟子丸部会長

まちづくりじゃないですか。

○吉田保健福祉課長

そうですね。

○嶋委員

じゃあ省略します。

それからね、私、今日来た最大の目的というか、ちょっと質問なんですけど。

防災について、すごくちょっと。7月にいろんな噂があるので。

ご存じですか。7月。7月の大地震の噂でございます。

全然ご存じない。

台湾とフィリピン沖の間ぐらいで大、大地震がおきて、大津波が発生して、1つ島が1つ。なんか、台湾かちょっとそれぐらいの大地震が起きて、それが日本に影響してくるといいう、たつきりょうさんという漫画家が夢の中で、その方、3.11の東日本大震災を予測ね、いやいや予知じゃなくて予夢ですかね。

夢で見られて、マンガに書かれた。

最初は全然誰も読まなかった本が、3.11があたったというか、7月5日前後とかいう話はあるんですけど。この話がですね、どういうわけか。

香港どういうわけか香港に伝わって。有名な風水師の方が、私も7月に、そういう夢を見たとかいう、夢だったかどうかわからないんですけど。そういう予言を聞いたみたいな話があつて。香港から、韓国もそうなんですけど。神戸とか、博多とかの飛行機の定期便が5便から3便になって。5月からは2便になって定期便が、半分になったとかいう、7月はちょっと無理ですよ。

そういう。一緒に、台湾が減ったかどうかはわかんないですよ。

新聞にはそういうふう書いてます。

そういう流言。言ってみれば流言なんですけど。

その新聞記事の最後に東大の教授が、確かにその非科学的なことなんだけど、ただ、予知された内容の、要するに大地震のとか、大洪水とかいろんな要するに災害に対する準備は、別に早く準備して悪いことは何もないので、これが契機で準備されるのであれば、必ずしも流言が否定されるものではないですね、といったような。

ちょっと私もその通りと思っていて。7月、何もないことをもちろん祈ってるんですけど。

ただ、もしもそういうフィリピン、台湾の真ん中ぐらいのプレートの交差点で、大地震なり大津波が起きて、それが間違って、南海トラフで連動して、大阪湾には 5 メーターですかね。大阪の危機管理室が発表されてるのを見れば。津波が来れば多分、聖賢小学校の辺りは水浸しになるんで、平地なんで。

5 メーターぐらいだったら、ちょっと危ないかもしれないですね。

浸水するぐらいならまだしも、地震がしょっちゅう起きたらちょっとわからんなどというのもあるんで。ちょっと脱線しましたけども。

全体の質疑もちょっとあったと思うんですけども、もと区民ホールで、防災備蓄倉庫として整備してるというお話が、前回の議事録に入ってます。

それは、あれ、確かに区民ホールって相当前にもう 2 年か 3 年前じゃないかと思うんですが、もっと前かもしれない。クローズされたのは。

何年経てばここ完成するんですかというのは、まず 1 つ。

いつなれば完成するんですかね。防災担当じゃないからわからないというのもあるかもしれません。

○吉田保健福祉課長

そうですね。

大変申し訳ないんですがちょっと防災の関係になってまして、私の方がちょっと今、承知しておりませんでして。

○嶋委員

できれば今月ぐらい完成して欲しいと思ってるんですが。

それともう 1 つ、これはお願いなんですが。

防災の備品に、絶対、簡易トイレをたくさん作ってください、入れてくださいというお願いです。

お分かりになります。

○有田委員

簡易トイレって入ってるんじゃないですか。

○嶋委員

いくつか入ってると思うけど。

せいぜい 1 世帯あたりで 1 つか 2 つじゃないかと。10 個はないと思います。

この簡易トイレって、中の凝固剤と消臭剤は消耗品ですからね。

なければ、また、あれたぶん 5 個分ぐらいしか入ってないと思うんです、1 セットあたり。

私は、阪神淡路大震災の時、大阪から神戸まで通勤というか、阪神が途中の甲子園まで行ってたんで、甲子園から 3 時間かけて通勤したんですけど。

その時にいくつかの被災地を見てきたんですけど、もう大体そのあと共通なのは、被災地 50 人でも 100 人でも 200 人でもいらっしゃるところがあるんですが、最初は食欲もあって食べられます。

3 日目くらいから 3 割ぐらいありますけども、そのあとに、5 日目ぐらいになったら食欲なくなって、持ってたおにぎりとか、それからペットボトルが余ります。

それを私はもらって帰ったっちゃう記憶あるんですけど。

何でか言うと、食欲なくなる、トイレ行かなくなる。

トイレ減らすため、食べ物と飲み物を控えられる。食欲もなくなる。

何でかったら、トイレがどんな都心部の、被災地というのは小学校とかありますけど、小学校のせいぜいワンフロアで、ちいちゃいのが5つか6つ。

そんな中で、300人か500人とかいう使われて、地震というのは怖い。

ここで何か、浸水したのは、台風で浸水したというのは出てましたが、台風はインフラは大丈夫なんですよね。

下水道、上水道、電気、ガスというのは、瞬間的にはダウンしますが、リカバーは非常に早いですね。

だけど、地震というのは上水道、下水道が、ガス管なんかもそうなんですけど、全滅とは言いませんが、だから、生きてる避難所はいいんですけど。

下水と上水が止まったところと言ったら、もう悲惨ですよ。

経験された方は少ないと思うんですけど。

私が阪神で行った阪神甲子園のトイレは。

○吉田保健福祉課長

地震の話はちょっと。この場では多分。

○嶋委員

関係ないんで、願いの1つとして、はい。

皆さんどうぞ、意見があるなら、お話しください。

○弟子丸部会長

もしよろしかったら防災に関してでしたら、それこそ地域の方でね。防災っていうのは、いつそういうのが起こるかわからない。

私らは、高齢者とか、障がい者とか、この分野はそういった分野ですので地域における。

はい。

ちょうど来られましたね、はい。

○大谷総務課長

もと区民ホールの防災倉庫につきましては、今改修工事は全て済みまして、備蓄物資を入れておる状態になっております。

あと、今そういう状態では完成しておりますんで。

あと空きスペースがありますんで、それにつきましては、聖賢老人憩いの家さん、その今、仮移転先ということで今後ちょっとホールとかそういったところを、今、設計とかしながら、地域集会所という形で稼働させるような形で今整備を、今後また進めようとしている状態です。

備蓄倉庫としてはもうすでに稼働してる状態です。

はい。

もう今物資も入っておりますし、何かあったときにはそこから、あれは城東区の中のそういった形で、何か起こったときには、物資、入ってるものについてはお渡ししていきます。

○嶋委員

今もお話ししていたんですが、簡易トイレってどれぐらい準備されてますか。

○大谷総務課長

そうですね。

簡易トイレは、ちょっと防災担当がおりますんで。

○嶋委員

ちょっと確認してもらえませんか。

○大谷総務課長

はい。

○弟子丸部会長

それまで、すいません。

今言いましたように、障がい者とか高齢者在宅の高齢者も含めてですが、そういう高齢者とか障がいの方たちが防災のときにどういう対応が、考えられてるのか、避難所の問題もありますけど、ちょっとやっぱり一般の方とね、そういう障がいのお持ちの方とかは、いろいろな状態、或いは、逆に言うたら一緒にできないから、車の中で過ごしていたとかね。いろんな今、石川県だったり、神戸もそうだったと思いますし、東北もそうだったと思います。

その辺はどういうふうに。

○吉田保健福祉課長

はい。

経営課題4のところ、資料の③っていうところに、地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業というのを書かせていただいております。ちょっとやっぱり社協、社会福祉協議会の方ですね見守り相談員、いうことで、取り組みを進めているものなんですけれども、その中に要援護者情報の整備というのを掲載させていただいてます。

こちらにつきましては、地域にお住まいで孤立されてる方とか、ちょっと必要な支援を受けておられないような方について、地域の皆様からですね情報や相談を通じて、地域団体とか専門機関と連携して、名簿、要援護者名簿っていうものを作成して、それを地域のほうに提供をしていると。

その名簿については、その防災の、災害時の要援護者というようなことですね。

例えば、介護が必要な方であるとか、障がいをお持ちの方についてはご自身でなかなか動けないような方について、名簿を作成させていただきまして、見守りの活動に役立てていただいく。というような取り組みがございます。

あと、すいません。

ちょっと同じところの②のところで、地域福祉支援事業と書いております地域サポーターを中心に、地域における要配慮者情報収集、災害時要配慮者支援の推進というところを書かせていただいたところになりますけれども、こちらの地域サポーターといいますのが、各地区に配置をさせていただいております、地域サポーターという役割をして、そういう名称なんですけれども、各地域で開催されておりますふれあい喫茶であるとか食事サービス、個別相談などを通じて、地域で要配慮となられる方の情報収集、ふれあい喫茶とか食事サービスの場でいろんな情報収集であったりとか、見守り活動を行ったりというようなことで、災害時に、この方が、ちょっと要配慮だということで、そういった方の支援を、行うような取り組みなんかもさせていただいております。

災害時の避難所のところにつきましては、個別避難計画ということで、各地域で個別避難計画を作成をしていただいております、ちょっと私もあまり詳細ご説明できないんですけれども、個別避難計画の方を作成して、災害に備えていただいているというようなことでございます。

よろしく願いいたします。

○弟子丸部会長

はい。ありがとうございます。

○大谷総務課長

すいません。ちょっと今確認させていただきまして。

城東区の備蓄倉庫とかそういう問題ではなくて、要はいろんな小学校とかいろいろ、大阪市トータルとしてですね、1人1日5回分ぐらいね。

264万8980回分が、そういうトータル大阪市として、用意してるという状態らしいです。

○嶋委員

それ、大阪市ですか。

○大谷総務課長

城東区というか、情報が大阪市で。

1人当たり5回っていう基準みたいなところを用意しながらやってる。

大阪市として用意してもらってっていうような形らしいです。

○嶋委員

ちょっともう1回脱線させていただいて。

これ、7月があるからちょっと脱線させていただきたいんで。

7月超えて何もなければ、本当ちょっとお邪魔虫だったと思うんですが。

こんなデータがあるんですね、ちょっと。

リクルートが調べた調査結果なんですけど、各県ごとに、災害時の避難場所、充実してるまちというか市とか、そういうランキングがあるんですね。

大阪府で。

1位が中央区です。2位が北区です。3位が天王寺区、西区、都島区、阿倍野区があって、その下に市が来るんですけど城東区は25位です。

お隣の旭区が40位で、鶴見区が48位か。

ただ、中央区、どういうあれしたかわかんないんですが。

中央区が19点1位ですね。北区が15点で、25位の城東区は1.48点。

旭区は1.12点。鶴見区は1点台。

それ以降60位までずっと1点いかないってことです。

だから、要するに最下位と同じということほとんど25位と言っても、1以下の数字で上とか下とかいう話です。

それ災害時の避難場所充実という項目なんかは、ちょっとクエッションマークなんですけど、避難場所って明示されてるはずなんですけども。マップで。

だけど、1つは確かめたことないんでわかんないんですが。

或いはどういう、どういうことでこういう係数になったのかいうのは、ちょっとわからなくてですね、ただこういう評価があるので、申し訳ないですが、リクルートに、ちょっと声かけて、ご確認いただきたいなと。

逆に言えばそれは、城東区の避難場所の1つの、ウィークポイントが、転がってヒントかもしれないので、我々からすればいつお世話になるかわからないことなので、来月お世話になりたいくはないんですけども。

そういうこともちょっとあるのでね、ちょっと、議事をちょっと邪魔しながら、申し訳ないけどしてますけれども。

○弟子丸部会長

あとは、すいません。

防災の関係っていうことでね。

○嶋委員

ごめんなさい。もう1つ言わせてください。

大阪市の危機管理室が、平成16年に発表した津波の浸水。

津波ですよ。台風ではなくて。

南海トラフの5メートル以上の津波が来たときの浸水で、一番ダメージを受けるところが住之江とか大正とか、淀川区、東淀川水域とか海岸部なんです、内陸部で唯一城東区が入ってるんです。

これ大阪市が作ったデータとマップなんで、そこら辺は理由とあれを、また詳しくお調べいただけたらと思うんですけど。

○大谷総務課長

城東区って川の集まってきた低床なところなんで。

○嶋委員

うん、たぶん河川だとか、運河だとか寝屋川だとか、はい。

淀川沿いも城北の一部がね、城北公園ほうの。

上町台地以外の9割は、低湿地帯のあれですから。どこが浸水してもおかしくないんですが。

ただ海岸部と城東区だけが、同じレベルっていうのはちょっと何か気持ち悪い。どうしてもそういうのがありましたので、そこでちょっとご確認いただければと。

リクルートですけど。

○大谷総務課長

基本的にはハザードマップに書いてあるとおりになってますんで、それぐらいがやっぱり地形的なもので。

○嶋委員

邪魔ついでにもうひとつ。

旧の区民ホールのその横ぐらの電柱に中央1、2、3って、避難場所は、成育小学校だと思ってるんですが、マップでは。だけど、電柱のところが三本ぐらい聖賢小学校って書いてあって。それは避難としてはいいかもしれませんが、私は、5メートル以上の津波が来たときはちょっとあそこは正直お勧めできないなと思ってて。ちょっとそういう地区割りが。

○大谷総務課長

小学校区では聖賢小学校区になってたりしますんで、あちらの方の、優先的にそうなるとは思いますが。

○嶋委員

所轄もちょっといろいろあって大変でしょうけど。ちょっとすいませんが。

はい。

○弟子丸部会長

すいません、もう時間もあれなのでですね。

もし質問等がありましたらここにも質問事項の用紙も載ってますので。

○嶋委員

すいません。緊急だったからお邪魔しました。緊急性なければ次回からは。

○弟子丸部会長

いや、防災に関してはね、いろんな部分では、多分論議していかないといけない。

○嶋委員

それと、防災は絶対、老人福祉にもものすごく影響します。

○弟子丸部会長

はい。影響します。

だからそれを思ってますので、この会議では、皆さんのその地域とどう関わっていくかっていうことと、皆さんも地域の代表から来られてますので、地域の状況も踏まえて。

○嶋委員

地域の状況も大事ですが、緊急度が一番大事。どちら早く、どちらを情報として、早く知りたいかと、伝えた方がええかという話の、問題なんで。

○弟子丸部会長

それで、あと、地域の方から来られてる方に。

地域での高齢者の方との関わりで、防災で悩まれてることとかあれば今、意見言ってもらえたらと思います。

○有田委員

うちの地区、今、聖賢地区で70歳以上の方が2000、2300人ぐらいいらっしゃるんです。

○嶋委員

70以上？

○有田委員

はい。

○嶋委員

75じゃないの？少ないですか。

○有田委員

少ないですよ。聖賢地区ですよ。

○嶋委員

聖賢地区10何町会もあるでしょ。

校下でしょ。聖賢校下でしょ。

言われてるのは聖賢校下でしょ。

○有田委員

そうです。聖賢校下ですよ。

○嶋委員

17町会というのは、中央の3ですけど、そこまでは聖賢校下ですよ。

そこまで聖賢校下ですよ。中央の3丁目。

中央1、2、3入ってます？

そこだけで1000人近くいらっしゃいますよ。

70以上だったら、うちのマンションだけで100人いますよ。

○有田委員

毎年、各町会で。

- 嶋委員
各町がとかっていうのは、17 町会までですよ。
- 有田委員
いや、23 町会あるんです。
- 嶋委員
23 ってどこにあるんですか。
どこら辺にあるんですか。
- 有田委員
聖賢校下内にありますよ。
- 嶋委員
ああもういいです。
- 有田委員
毎年、敬老の日の調査をしてるんです。
それで、集まったのが、70 歳以上が 2300 名ぐらいいらっしゃるんです。
これは町会長が全部調べていただいたやつなんで、確かな数値です。
- 嶋委員
町会長は、23 の町会の？
- 有田委員
そうです。
いやあの、嶋さん住んではるマンションが一番多いんですよ。
いやそれは確かに数字なんで、私がやってるやつですから。
はい。
それは信じていただこうがどっちでもいいんですが。はい。
で、100 歳以上も 14、15 人いらっしゃるんですかね。
聖賢校下では。はい。
うちの、町会では、結構 1 人住まいの方もいらっしゃるんですけども、これや
っぱり、助け合いというのを結構されてるんですよ。
で、その人 1 人で住んでる場合、認知が進んでるときは、隣の人から声かけたり
なんやかんやとやってはるというのは、今、うちの町会ではやってはります。
- 嶋委員
何町会ですか？
- 有田委員
8 町会です。
蒲生三丁目の一番狭いところですね。
- 嶋委員
昔からのところですね。
- 有田委員
はい。だからマンションとはまた全然違う。
- 弟子丸部会長
もし、はいご意見あれば。
- 門田委員
鯉江です。鯉江では、75 歳以上が 660 人ぐらい。
去年の敬老の日のお祝いで持って行った人数です。

でもその中で、私ところの地域で一応、民生委員してるんですけども、要援護者の名簿いただくんですけども、それは私だけ。いや、私だけではなくて、町会長さんとか連長さんもお存じなんですけれども、他、近所の人は全く知りません。

横隣にちょっと足の悪い人がいてても、その人の名前も、古くから住んでる方は多分わかると思うんですけど、新しくお家ができたなら、隣の人はどんな人が住んでるかっていうのは、昔みたいに、これ、引っ越してきましたっていう挨拶っていうのも、何かもうないみたいなので、誰が住んでいるかっていうのがなかなかわからない。

それにもまして、特に一人暮らし。一人暮らしの方もおられるんですけどもこないだまで息子さんと一緒だったのに息子さんも出て行かれたとか、そういうような情報というのが、なかなか入ってこないの、まさかこうピンポンして聞きにいったって、全然開けてくれないっていう人も結構いますのでね。

ただそういうときに、何かあったときに、果たして、本当にその人のところ行って一緒に行きましょうっていうのが、言えるかなっていうのがすごく不安です。

何かもうちょっと、地域で、近所で、もうちょっと、誰々さんが住んでいる。それこそ名字が、今あったように、どっかのところいっても100歳体操しても、名札なんかありませんから、初めて行っても、誰、あの人誰、誰っていうような感じでどこに住んでとか、それがしっかりとわかるようになったらもう、地域でいいような感じになるんじゃないかなとは思いますが。

○嶋委員

いろんなとこ、みんな名札つけてないのが普通なんですか。

○門田委員

はい。

○嶋委員

そういう文化なんです。

○門田委員

いや昔、主任児童委員しているときは、名札みたいなのをお母さんの名前をつけて子どももつけて、ここにちゃんと貼るような感じでしてたんですけど。

何かの事件からそういう名前とかそういうのは一切なくなったので、本当にこの人は名前もわからないとか。

何回聞いてても全然、年取ってきたから覚えられない。よっぽど印象の深い人だったら覚えるんですけども。

もうそういうのが、要するに名前が覚えられないっていうのがあります。

○有田委員

今名前付けるのも嫌がる方もいる。

○門田委員

まあね、それもやっぱりちょっとしたことで会って、何々さんって声かけたいけれども、名前がわからないから、すいませんすいませんって、何か。

○嶋委員

変な言い方したら、年取ったら何があるかわからない。

○門田委員

自分も名前つけたいぐらいですよ。

まあね、小学校でも名札がないようなあれになったのでね。

○嶋委員

年寄りになったら首からいつもスマホをぶら下げるというのもありますけど。

○河野委員

関目東ですけどね。

ふれあい広場で、最近ですねやっぱり来た人が、あの人誰ということになってきたんで、名札を手書きで用意してもらって、で、来たときに、その出席票みたいね、これをもって自分で掛けて、だから、あの人やなってわかるってことで。それがまあ結構好評で。

今日来てるな、今日は来てないとか言ってる。

○嶋委員

それが自然だと思うんですよ。

それで、ちょっと嫌な人はつけなきゃいいんですよ。

嫌な人は、10人にひとりいるかなあ。

別に嫌な人はそれはそれで構わないですけどね。

○河野委員

いっぺんやってみようかなあっていうスタイルの方もおられます。

その時、名札つけてもらったら、また来ていただけるのかなあと思って、それでやっています。

○門田委員

年いってたら、名札っていうのは別に嫌がらないですけど、小さなお子さんとかは、特にお母さんが、嫌がるんですよ。

いや、何か知れたら、何かちょっとよくわからないんですけどね。

なんかもう全然考え方っていう時代が違ってくるのかなあと思って、それに合わせないと駄目なのかなっていう、なんかちょっと寂しいような感じを受けますね。

○弟子丸部会長

もう8時も5分過ぎましたので、まとめにも入っていかないとはいませんが、他に、今日のね、評価の点で何かもうちょっとここは聞きたかったとか、意見はございませんか。

○嶋委員

せっかく区長さんがいらっしゃるので。

一言。いいですか。

○弟子丸部会長

はい。短く5分ぐらいで。

○嶋委員

じゃあ5分30秒ぐらいで。

いろいろな課題、経営課題1から5までの、素晴らしい文章力で超抽象的なこと。素晴らしいなと思ってんですが。

防犯防災というので、ちょっといろいろ検索しましたら、防犯で、城東区は治安が一番いい区なんですね。

千人当たりの、件数ですけどね、事件の発生件数。

ちょっと古くて19年度なんで、経済犯罪白書とか、それで城東が8.16で、一

番治安が良い区ですね。

その次が西淀の 8.5。旭区の 8.7 とかそんなところで。

最下位は、中央区で 62 なんですよ。

7、8 倍ぐらい事件が発生してるわけだね。

窃盗犯が 80% なんで、まあ、重大犯罪は非常に少ないと。

逆に言えば、そういうのを、城東区の 1 つの、売りとして、住みやすい町の 1 つの要素としては大きいのかなと思っています。

それから、今流行りの、電話の詐欺は何でしたっけあの。エコエコ。

この貸し出し。これを、目標値に定められたらどうですか。

65 歳以上の家庭の、3 分の 2 以上に貸与するとか、そういうのはどのようなものでしょうか。

○吉村区長

治安がいいというご評価いただくというのはありがたいことだと思います。

警察署も含めて、地域の方々のいろいろ対応していただいている結果やなと思ってます。

さきほどおっしゃった、いわゆる録音機ですよね。あれは貸出もふやしてるんですがそれを目標の数値にするというよりは、今、街なかで売ってる電話機自体に録音装置がついてるっていうのもありますので、ちょっとそれを目標指標にするっていうのはどうかなっていうところがございます。

その一方で、時代とともにその犯罪の形、いわゆる防犯という領域にあてはまる、いわゆる犯罪の形っていうのが大きく変わってきまして、昨今は、例の特殊詐欺ですね。あれが実は、大阪府下の警察署の中で、城東区管轄っていうのが一番多いらしいです。

○嶋委員

それなんでですか。

○吉村区長

やっぱりそういう、お金持ってんちゃうかという人がね。何か犯人あたりぐらいで目をつけられてるっていう。

○嶋委員

城東区が貧乏やっていう P R は特にできないですよ。

○吉村区長

もちろんこれ高額の、例えばすごい億ションみたいなところに住んでる方々の数が、そういう意味でいうと、必ずしもそれがダイレクトに犯罪件数っていうわけじゃないんです。

やっぱりそういう高齢者がいてるよ、みたいな名簿みたいなのがやっぱり犯罪集団の中で出回るらしいんですよ。

その結果として、城東区がすごくそういうターゲットになりやすい、そういう分析ではあるんですけども。

おっしゃるとおり、窃盗だとか重大犯罪はたしかに少なく治安がいいっていう、それは我々も把握はしてるんですけども。

いろんな、こうネット社会とかになっている中での新たな形の犯罪っていうところが、やはり形を変えていけば、城東区も、ターゲットになっていってるっていうのが事実としてありますので、治安がいいということ自体はもちろん、自負

しながら、或いは誇りに思いながら、新たな形でいろんなそういう事象にも対応しよう。

警察署また連絡しながら、そういうところの取り組みとか、周知とか、1つの手だてとして、おっしゃっていただいた録音装置の貸し出しとかいうふうなものを、件数としては、どんどん増やしていきたいなっていう、そこはしっかりやっていきたいなとは考えています。

○弟子丸部会長

なぜ時間も来ましたので、ちょっとまとめのほうに入っていきたいと思います。まとめなんですが、1つ意見として出されました。

嶋さんの方から出された、さっきの評価の件ですね。

支え合うまちづくりの中で、62%以上という評価を、民生委員、それから児童委員のアンケート、210名いらっしゃる中で62%の方が支えあう活動ができていると。

じゃあその逆の38%の方は、どういう意見ですか。良くないと思ってるのはどういう状況なんですか。そういう点からやっぱり探っていく必要があるんじゃないかという話が出されたと思います。

あとは目標の設定を、もうちょっと具体的なものからやっていくことがよいのではないかというお話がありました。

在宅で住み慣れた地域で安心して暮らして行くっていうところでは、そういう評価の部分では100歳以上は何人とか、具体的な指標を出して、評価していくべきではないかと、というような考えもあるんじゃないかというご意見を出していただきました。

あとは防災ですね、っていうのは、これはもうすべてにおいて関わる問題だと思います。

ということで、これ、今、7月にフィリピン沖で大地震が予知されているという、或いは南海トラフの方が先に起こるかもわかりません。

それに備えた、防犯対策がどのようにされているのかということと、それはまた、防災対策の方で議論していただきたいと思います。

そして地域の中では、そういうふうに、高齢者とか障がい者のね。支えあい、或いは見守り体制という部分で、実際具体的に民生委員で、名簿をもらうが、具体的にその名前を、他の人に知らせるとかそういったのは絶対できないことであり、またいろんな、ふれあい喫茶とかいろんな100歳体操とかに来られても最近あまり名札をつけない。

逆に言うとそういう中で、コミュニケーションが取りにくい、名前も知らないっていうことで、或いは、そういう場から離れたときも近くに住んでるんだけど、きっかけがね、やっぱ名前を知らない状況も生まれてくるということもあり得るんで、何かこう、名前を、その時だけでもいいから名札をつけるとか、そういうお互いを知り合う環境づくりですねっていうのを考えていかなきゃいけないのではないかという意見が出されたんじゃないかなと思います。いいですか。

○吉田保健福祉課長

先ほど地域の方からですね、単齢者が増えているっていうか地域の繋がりが希薄化してるというようなちょっと課題の方のお話があったかと思います。

地域福祉プランの方にも記載させていただいてるんですけど城東区内65歳以

上、単身の高齢世帯が1万2600ほどあるということで、国勢調査の数値であり、5年前から15%ほど増加しているという状況にもなっておりまして、大きな課題と言えます。

その中でですね、高齢者等の見守りの支援であったりとか、あと認知症の対策ということについての取り組み方をしていきたいと。

特に地域との繋がりが希薄な孤立世帯と言われる方も多数いらっしゃいますので、そういった方に対しましては、見守り相談室の方の、福祉の専門職の方がいらっしゃいますので、そういった方々からアウトリーチと我々言ってますけれども働きかけを行ったり、いろいろ取り組みをさせていただきまして、できるだけ災害時等にですね、孤立しないようにしていくっていうのと、あと地域で行っております、ふれあい喫茶とかですね、そういったイベントというか集まりにもできるだけ、参加いただくような働きかけっていうことも大事なかなというふうに思ってますので、いただきましたご意見なんかも参考にさせていただきまして、取り組み進めて参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○弟子丸部会長

ありがとうございます。

では以上で、この部会は終わらせていただきます。